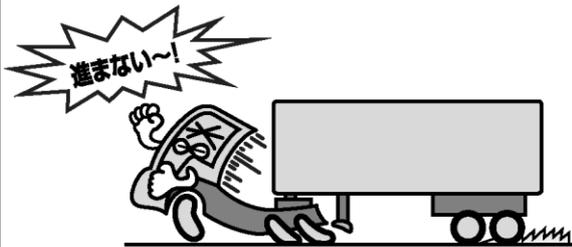


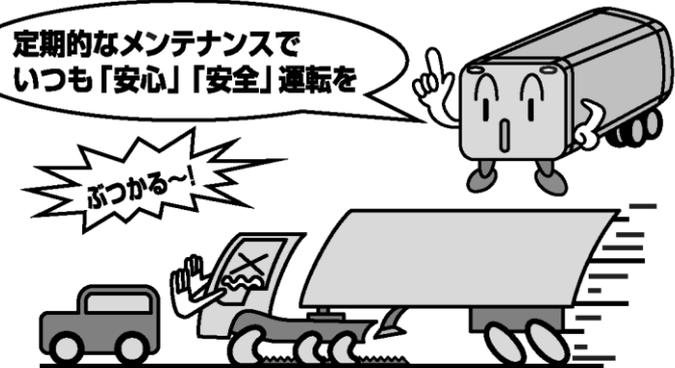
リレー・エマージェンシ・バルブ内の水分除去のお願い

❄️ ❄️ **ブレーキ機器の凍結に注意!** ❄️ ❄️

リレーピストン内部の水分が凍ると...



**トレーラのブレーキが
ききっぱなしになる**



**トレーラのブレーキが
きかなくなる**

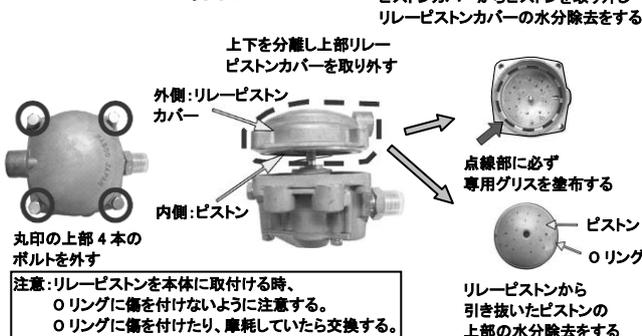
注意: 厳冬期に入る前の日常点検でドレンが大量に出る場合は、トラクタのエア・ドライヤの点検整備を早めに行っておくことをお勧めします。

貴方は知っていますか? リレー・エマージェンシ・バルブは3ヶ月(メーカー指定)・12ヶ月(法定)点検項目になっている事を。ブレーキ機器が凍結するとブレーキが作動しない為、非常に危険な状態になります。特に冬期気温が氷点下にさがる地域においてはブレーキ・エア内に含まれた水分がリレー・エマージェンシ・バルブ等の内部で凍結し作動不良を起こす要因となります。凍結を防止するために、凝水(ドレン)の排出を励行すると共にサービス工場にてリレーバルブ等の内部とリレーピストン部の水分除去を行って下さい。

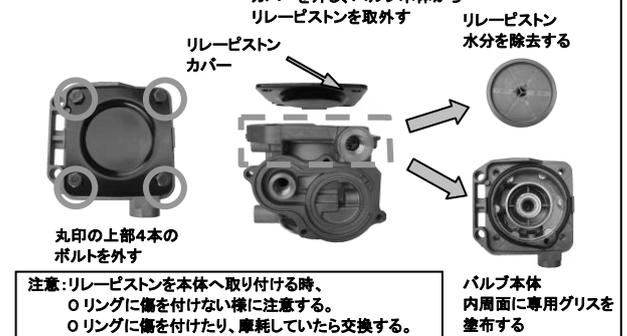
配管内の水除去及び水侵入防止のお願い

上記点検と同時にコントロール・ライン及びサプライ・ラインの配管内をエアブローして水を排出したりホース・カップリング部を外した時には常にキャップをする事で雨水の浸入防止にも効果があります。

Nabtesco の場合



WABCO の場合



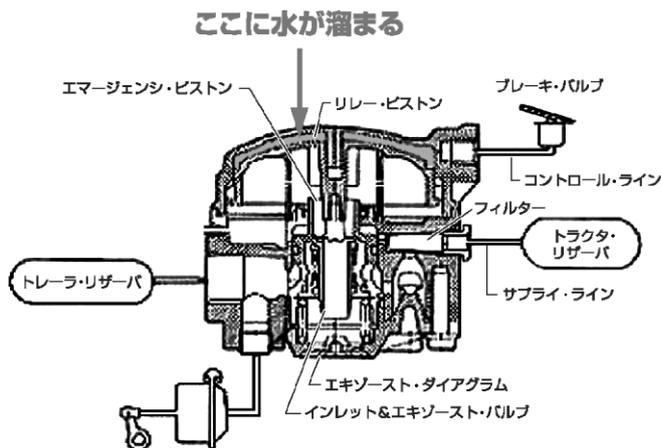
専門的な技術や機械工具を要する点検・整備については専門のサービス工場を受けて下さい。

リレー・エマージェンシ・バルブ内の水分除去のお願い

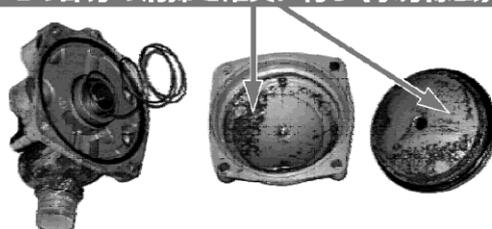
* 専門的な技術や機械工具を要する点検・整備については専門のサービス工場を受けて下さい。
 (本装置の分解整備を行う場合には整備要領書を読み作業を行って下さい。)

カバーを外し、更にリレー・ピストンも取り外し、カバー内面及びピストンの水分・スラッジ等を除去しカバー内面に専用グリス(リチウムベースグリスNo2相当)を塗布する。

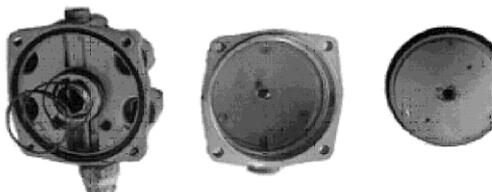
《例》RE-6※の場合(分解内部写真)



この部分の清掃を確実に(水分除去)



清掃後のバルブ内部



水分除去分解手順

1. コントロール・ラインのエア配管の取り外し。
 2. リレー・バルブカバーの六角ボルト4本を外す。
 3. 上部カバーとピストンを本体より取り外す。
 4. カバー部からピストンを分離する。(ピストンを分離時コントロールのポート部から圧縮エアを徐々に吹き込むと簡単に外れます)
 5. カバー内部とピストン頭部の水分及び付着物を布等にて綺麗に清掃する。
- ※上記点検と同時にコントロール・ライン及びサプライ・ラインの配管内をエアブローして水を排出して下さい。



トラクタ側エア・ドライヤ点検のお願い

ブレーキ・エアに含まれる水分は、ブレーキ機器の潤滑油を洗い流して作動を妨げ、冬季においては凍結して作動不良になる危険性があります。これらの問題を解決するためトラクタにエア・ドライヤが装着されていますが、性能を維持するためには定期的な点検整備が必要です。

交換部品や交換時期等については各トラクタメーカーの取り扱い説明書に従ってください



エア・ドライヤ



乾燥剤
フィルター

エア・ドライヤ
内部構造

バルブ内の消耗品の定期交換のお願い

バルブを分解整備した場合はゴム部品(Oリング等)の交換及び専用グリスの塗布を同時に実施願います。

※詳細については各メーカーにお問い合わせ願います。